

総合図書館LSセミナー学問の広場シリーズ

好きを研究するには？

－推し活とコミュニケーション研究を事例に－

担当：総合図書館LS（人文・D2）

本日の流れ

1. 本セミナーの目的・概要
2. LSの自己紹介
3. LSの研究について
4. 研究立案時の批判・課題
5. 批判・課題を受けて行ったこと
6. まとめ



1. セミナーの目的と概要

セミナー1 (10/29) ～LSの研究体験記～

研究するときにぶつかった課題や解決方法

セミナー2 (11/5) ～好きを研究するには?～

自分の関心を**研究**にしていくプロセスを受講生に提示する。

セミナー3 (11/12) ～研究を計画してみよう!～

受講生の関心に基づいて**研究を計画する**体験をしてもらう。

2. LSの自己紹介

◆総合図書館LS 岸田（人文学研究科言語文化学専攻D2）

◆専門：社会言語学・メディアコミュニケーション・ファン研究

◆研究テーマ

「推し活」におけるコミュニケーションと共有された知識

－2.5次元アイドルファンコミュニティのエスノグラフィーを通じて－



3. LSの研究について

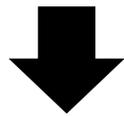
研究テーマ

「推し活」におけるコミュニケーションと共有された知識

－2.5次元アイドルファンコミュニティのエスノグラフィーを通じて－



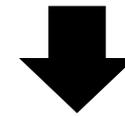
炎上を目撃したら
スルーしよう！



炎上・誹謗中傷に対する態度



礼儀正しく、でも
仲良くなるように



オンラインコミュニ
ケーションにおける社
会的距離の取り方

4. 研究立案時の批判・課題

① **新規性**が高い文化を研究対象とする時の批判

「押し活」という言葉は研究で使わないほうがいい

② 趣味研究やファンコミュニティの**学術的地位が低い**ための批判

好きなアイドルのことを調べたいだけではないか？

③ ファンコミュニティに見られる**多様な課題**

どの問題に焦点を当てるべきなのか？？

5. 批判・課題を受けて行ったこと

関心を広く深掘りする！

炎上・誹謗中傷 情報学、法学、教育学、社会調査etc...



議論すべき問題
が多すぎる！

混乱

ファンコミュニ
ティを調査する意
味は？



なぜ人々は誹謗中傷に甘い
のだろうか？？

研究者

定義が研究者中心的
被害者の感情には無関心

(自分も含め) SNSユーザー

誹謗中傷を見て見ぬふりしたり、気にする被害者
を批判する風潮がある・・・

ファンコミュニティは 誹謗中傷や炎上問題に強く関連している

ファン



誹謗中傷



推し

ファン（当事者）としての経験を活かすことができる

コミュニティのルールに関する事前知識

5. 批判・課題を受けて行った/行っていること



研究は1人で成し遂げられるものではないから抱え込む必要がない

それぞれの専門で、できることを考えれば良い

社会調査は誹謗中傷の傾向を捉えるために必要、では質的研究は？

ファンコミュニティの中で共有されている知は誹謗中傷の新たな側面を指摘するかもしれない

幅広い分野の検討から専門の古典へ

学問体系ごとに先行研究の傾向を整理する

5. 批判・課題を受けて行った/行っていること

学問体系ごとに先行研究の傾向を整理する

研究背景

「推し活」の歴史（文化研究）

自分の調査コミュニティの現状を明らかにすることで研究コミュニティにどう貢献できるか

分析枠組み・研究手法

- ◆コミュニケーションのとらえ方
- ◆データの分析方法

データの分析のモデルとなるような論文を見つけたい...



自分の専門に関する古典や先行研究の整理をすることで新たな課題が見えてくる

6. まとめ

研究は常に疑問や悩みとともにある活動である！



焦りすぎることなく、着実に研究していくことが大切！